

米粉用米・飼料用米の取組に向けた県域での きっかけ作り

～水田フル活用プロジェクト(作物・畜産・農産物活用によるチーム活動)～

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

国において平成21年度から生産調整の実効性確保及び食料自給率向上を目的に、新規需要米(米粉用米、飼料用米)や麦、大豆、飼料作物を戦略作物として位置づけ、生産拡大を進める施策が始まり、本県では、麦の作付けが困難な調整水田等の不作付地において新規需要米の作付を推進する方針を出しています。新規需要米については、販売先の確保や生産・流通体制の整備等の課題があります。そこで、生産者や関係者を対象に、各地域において来年度以降に新規需要米の取り組みが本格的に進むことをねらいに、県域でのきっかけ作りを行ってきました。

【普及活動の成果】

生産者や関係者に新規需要米の必要性や課題を知ってもらうために、県水田農業推進協議会や県庁と連携し、県域で現地検討会、フォーラム等のコーディネートを行いました。合計300名の参加者があり、生産拡大や流通経路の確立に向けた方向性や課題の共通認識ができました。なお、これらの活動は、作物、畜産、農産物活用の担当3名で水田フル活用プロジェクトチームを結成し一体的に進めてきました。

(1) 新規需要米現地検討会(10月1日)

飼料用米栽培ほ場で、多収品種、鉄コーティング直播の有望性を検討し、飼料米利用の養鶏場および米粉製粉工場では、実際の利用場面を見ることで、新規需要米の生産、利用に関する関係者の理解を深めることができました。

(2) 飼料用米利活用検討会(10月19日)

甲賀地域の現地事例報告、畜技センターの試験研究報告および講師による全国事例に基づく課題と展望についての講演を通じて、飼料用米の利活用を図るための体制づくりの必要性を確認しました。

(3) 米粉推進フォーラム(11月26日)

米粉の可能性に関する講演、野洲市での米粉スイーツの事例報告を通じて、米粉用米の生産拡大や販売網の開拓に向けた機運が高まりました。